

波 濤

第 2 1 号

学 会 会 明 日
大 同 窓 会
送 センター 員 廣
行 放 送 大 学
行 神 奈 川 学 習 センター 同 窓 会
編 集 者 伊 東 平 成
任 務 東 平 成
責 任 者 伊 東 平 成
行 日 数 7 6 0 名 (平成12年12月31日現在)

【連合会便り】 いよいよ大学院生 募集近づく!

放送大学と同窓会との懇談会開催
平成十二年十二月四日大学本部に於いて
吉川学長、麻生副学長他関係者の出席のもと
と同窓会（連合会役員）との懇談会が行われ
ました。

【放送大学の現況及び今後の展開】
☆全国化に伴い学生数八五、〇〇〇人（全科履修生四七、〇〇〇人、卒業生一六、〇〇〇人）を越えた。
☆大学院は平成十四年度から学生を受け入れる。研究プログラムは、四つで学習は通信指導、単位認定試験、レポート提出による。

①「総合文化プログラム」
②「政策経営プログラム」
③「教育開発プログラム」
④「臨床心理プログラム」
《大学院学生受け入れスケジュール》
募 集：平成十三年六月頃
出願受付：平成十三年九月上旬頃
試 験：平成十三年十月上旬頃
一次選考：研究計画書等による書類審査
二次選考：関東及び拠点学習センターで
小論文を書かせて採点
面接試験：有り
詳細は放送大学のH・Pを見て下さい。

☆協定校の相互交流学习を千葉大学との間で実現した。
☆東京地区の学習センターが平成十三年四月から改称される。
☆東京第一が「世田谷」、第二が「文京」第三が「足立」新たに小平に「多摩」が設置される。
☆本部図書館利用制限緩和
平成十二年十二月から身分証明書①卒業証書の写し②住所証明書）を提示して



放送大学と同窓会連合会の懇談会 平成12年12月4日

専用磁気カードの発行を受け、3冊2週間借り出すことが出来る。学習センター図書館については各センター長の判断に委ねられている。
☆学生募集への協力要請があった。
☆平成十二年度卒業祝賀会・謝恩パーティーは新会場で開催される。
○開催日 平成十三年三月十八日（日）
○開催場所（浦安市舞浜）
卒業式（午前）東京ベイNKホール
卒業祝賀パーティー（午後）ヒルトン東京ベイタリスタルホール

第十二回通常総会 及び講演会 開催のお知らせ

神奈川学習センター同窓会第十二回通常総会及び講演会を開催しますのでお知らせ致します。
なお、詳細は総会通知書でお知らせ致します。

【総会】
日 時 平成十三年五月十三日（日）
午後一時～

場 所 神奈川学習センター講義室

《議案》

- 一、平成十二年度活動報告
- 二、平成十二年度収支・決算報告
- 三、平成十二年度フォスター・プラン活動報告
- 四、平成十二年度フォスター・プラン収支・決算報告
- 五、平成十三年活動計画
- 六、平成十三年度収支・予算
- 七、平成十三年度フォスター・プラン活動計画
- 八、平成十三年度フォスター・プラン収支・予算
- 九、平成十三年度役員選挙
- 十、その他

【講演会】

日 時 総会終了後二時三〇分～四時
講 師 隈部 正博
演 題 『ゲイテルの業績について』
神奈川学習センター助教

【懇親会】

講演会終了後懇親会を行う予定です。奮って参加して下さい。

「社会人のための大学フェア
in かながわ」に参加して

藤井輝

この催しは、平成一二年九月三十日に神奈川県民センターで行われ、神奈川県下の大学・短大が、社会人を対象に入学を呼び掛けたものです。主催者は神奈川県教育庁の生涯学習情報センターで、私は放送大学神奈川学習センターの推薦で、体験発表者という立場で参加しました。会場には横浜国立大学、慶応大学、放送大学など約五十校が参加して、各大学のパンフレットを用いて係員が自校のPRに務めていました。一方、その会場の一室を使って体験発表会が行われました。体験発表は私を含めて六名で、持ち時間は一名十五分、司会者の進行に合わせてということでしたが、たいして難しいこととはなく、各自の自由発表形式でした。

私は、
一 放送大学へ入学した動機
二 会社勤めとどう両立させたか
三 放送大学の授業内容はどうか
四 卒業して何が変わったか（得るものはあったか）？
の四項目に纏めて話しました。来訪者の関心事は、右記の二、三項のようでした。中には、過去に通信教育で挫折された方が、放送大学の通信教育はどうなっているのか？と興味をもっていられた人もいました。勿論私は、放送大学の良いところを大いにPRしました。
とにかく、私は放送大学と幅広い学生層、さらには公開された教材と教授陣をPRできて、肩の荷をおろしました。



新しい横浜と

古い横浜の発見

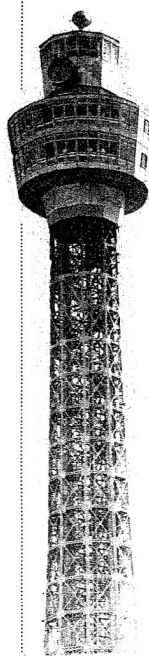
千葉同窓会 渡部睦子

十月二十九日（日）小雨で肌寒い晩秋の午後、桜木町駅からスタートしました。私は千葉学習センター所属で船橋に住んでいますが横浜はそう遠くないのに、一年に数回しか足を運ばませんでした。船橋はザウスと、ららぽーとがあるくらいで、私にとって横浜は娘の時から魅力的な街で散策、食事、ショッピングと楽しんでいました。友人から横浜発見の企画を耳にして参加させて戴きました。雨のために太平洋の白鳥の美しい姿の日本丸を見ることができずに残念でしたが、七月に二五時間三〇分かけて小笠原まで船の旅をしたので古くても大事に保存され一歩足を入れただけで、じっくりと見入ってしまいました。三菱みなとみらい技術館は、私たちの生活と切っても切れない関係にある科学技術の現在、そして未来の姿を紹介してくれる場でした。日本の宇宙開発技術ゾーンで純国産ロケットを見て、今後ますます本格化する宇宙開発に期待し、美しい地球環境を守るため、より豊かで便利な暮らしのために知恵と工夫で私たちの生活が支えられていることを楽しみながら少しだけ科学知識を学ぶことができただかなと思えました。ほんの少しの落葉でも秋を感じながら情報通信のすべてが分かる体験型マルチメディア、ワンダーランド、横浜遊電地へと行きました。情報通信の歴史は、横浜から始まったということ。そして私たちは近

未来のネットワーク社会を三次元立体像が繰り広げられる中で、偏光眼鏡を



かけて全員でクイズに参加し、超ワイドハイビジョン映像で童心に返ったような気持ちになれました。夕食には少し早かったがランドマークタワー内で食事をしました。コスモワールドのイルミネーション、とびっきりな夜景を見ながら幸せなひとときを過ごすことができました。エイジングを積極的に実生活のなかから導き生涯学習を楽しんでいこうと思っておりますので、半日でしたが貴重な体験をすることができありがとうございました。



オーロラ紀行

田澤 誠一

旅という異文化との接触から目新しさに好奇心が疼き、少なからず活発に活動するが、今回の旅は、従来のものとちょっと違っていた。北緯六二度二八分。一〇時頃ようやく太陽が出、四時には暗くなり始めると言った生活をしている。日中でもマイナス20℃前後。二〇〇〇年十二月三〇日から二〇〇一年一月六日までカナダのイエローナイフというオーロラの町にきているのだ。オーロラを見るチャンスは、七回、ガイドブックによれば三日滞在すれば90%は見られるという。しかし、既に滞在三日が過ぎているのに、まだ、オーロラを目にしていない。今はというと太陽活動十一年周期の最大活動期で通年より何倍もオーロラを観測出来るはずなのである。一月二日午後八時過ぎ、ついに待ちに待ったオーロラショーが始まった。

ホテルの窓から空を眺めていると縦に数本の光の柱が見えかくれしている。ついに、天の扉が開く。光の柱が降りてくる。何かの音が聞こえてくる様な感覚に襲われた。

観測用の服に着替え、カメラを持って湖上に出た。私の滞在しているホテル(B&B)のわきからこちらに向かいカーテンが引かれる。青緑色のカーテンが揺らぎながら少しづつ少しづつ全天へと広がって行く。いくつものカーテンが出来たり、流れて行ったりと私を楽しませてくれる。半月の月の下をオーロラが横切る。月明かりなど物ともせず。多少減って来たので部屋に戻る。カメラが冷えきってしまったためにフィルムを巻くのが怖くなったからだ。少し立ってからまた出かけた。すでに記念撮影もした。結局、この日は一時過までオーロラショーが続いた。さらに一月五日の深夜十二時を回ってから少しオーロラを見ただけでイエローナイフ滞在の七泊が終わった。読んだ本は、六冊。カナダへ読書に行っ



完全装備の 田澤さんと
全天に輝くオーロラショー

時の恩寵 或いは「主をほめ称えよ」
「バベットの晩餐会」を観て



片野 克巳

エンディング・ロールが流れている。暗がり之余計に暗さを増したように思えた。私は微笑を湛えていたのだろうか。何とも言えない不思議な可笑しさと、一人の謎めいた女性の素性を知ってしまったことへの苦い思いがある。謎は謎のままであった方がよい場合もあるし、それが女性のものなら尚更である。相まって、胸の奥でつかえているようなのである。こんな感覚は初めてである。可笑しさに染まった苦さ(或いはその逆であろうか・・・)とでもいうのか。しかしそれは苦笑ではない。何とも言えない時にポロッと顔に顯われるそれではない。その時の私の顔にあったのは、微笑であったと思ふ。だが、心の裡には少し苦さが混じっている。微かに響いてくるレモンの苦さ、とでも言ったらよいだろうか。そう、確かに私は微笑んでいた。前置きが長くなった。私はある映画を観たのだが、それは二月二十五日(日)に神奈川学習センターで開催された、坂井先生のお話しを混えた映画会で上映されたものである。その映画について、何やら「語る」ことになった。その映画とは、イサク(英語表音ではアイザック)・ディーネセン原作の『バベットの晩餐会』(ガブリエル・アクセル監督作品。デンマーク映

画、一九八七年)である。舞台はデンマークのユトランド地方。老牧師と二人の娘マルティネとワイルIPP。敬虔な生活の日々。そこに二人の男性がやって来て恋をする。がどれも破れてしまう。敬虔すぎる神への愛の犠牲となったかのよう。それから三十数年が経ち、牧師も亡くなり、姉妹もそこに集う会衆立ちも年老いて、怒りっぽくなっていく。そんな怒りっぽさがこの映画の大事な伏線となっていく。そんな中、大雨大風の吹き荒れる夜に、一人の中年の女性が姉妹の家へやってくる。彼女はバベットと名乗り、ここで家政婦として働かせてほしいという。姉妹は最初のうちは固辞していたが、バベットの熱意に負けて受け入れることにする。そしてさらに十四年経った。この様にして時間だけが過ぎていき、単調な毎日が積み重ねられて行くように見えたが、ある日、バベットがフランスの宝くじに当たり、一万フランの賞金を手に入れる。彼女はその一万フランを使い晩餐会を催したいと言いつつ、一時フランスへ帰ることに。この映画のヤマ場はその晩餐会にある。それまでのエピソードがこの晩餐会の伏線の様にさえ思える。姉妹の恋の成り行きさえも、当人同士の思惑がどうなるのかというところで、破れてしまうのであるが、それも淡々と描かれている。姉のマルティネとレーヴェンイエルムとの恋など、一見したところ古いメロドラマのようである。叶わぬ恋は、神と婚約したような娘との出会いによって運命づけられていた。蒼ざめた表情のままユトランドを去るレーヴェンイエルム。そのようなエピソードが積み重ねられながら「バベットの晩餐会」となる。バベットの料理は全てフランス料理であり、皆が今までに見たことも食べ

たこともないものである。姉妹を含め会衆たちの食事といえば、魚のスープのようなものと固いパンだけである。そして、その今までにないものへ恐れと不安からか、姉妹と会衆たちは、どんなにバベットの料理が美味かろうが、料理に関する言葉を喋ってはいけない、と決める事をする。その決める事が映画では面白く作用するのだが、言葉ではうまく説明できない。ここでは、バベットの料理を食べれば食べるほど、不安の面持ちが解けてくるのがよく分かった、と言うに留めておく。

バベットの料理の中で一際目立つものが二つあった。一つは、「海ガメのスープ」、もう一つは「ウズラのパイ包み焼き」である。「海ガメのスープ」はフランス料理ではかなり珍しいものらしい。何故ここで「海ガメのスープ」が登場するのだろうか、と考えて少し調べてみたら、『不思議の国のアリス』の中に「海ガメのスープの歌」というものに出会った。作者のデ

イーネセンが「アリス」を読んでいたかは分からない。ましてや作中人物のバベットが「アリス」のことを知っているとも思えない。だが、「海ガメのスープ」の印象はとて強かった。マルティネが悪夢にうなされるシーンがあるのだが、そこにも海ガメの顔が出て来たほどの強烈さである。

次に「ウズラのパイ包み焼き」であるが、これは一羽丸のままのウズラが丸いパイ皿の中に入っているものである。ここでもまた何故「ウズラ」か、と思いついてみたら、ウズラは西洋では思いがけない幸福の象徴であるという。「天からウズラが落ちて云々」という旧約聖書の記述もある（民数記十一・三十一）。映画の中でもバベットの次のような台詞がそんな意味合いで使われているのかも知れぬ。「私のウズラたち：：これは食材を

フランスから持ち帰ったときの台詞である。「ウズラ」は生きたままカゴの中で啼いており、そのかごはバベットが手にしている。バベットが用意した酒も食事とともにこの晩餐にはなくてはならないものである。赤ワインはキリスト教世界ではキリストの血の象徴となつてゐる。その赤のワインが頑な老会衆たちの顔に色を染めつけだし、心なしか嬉々とした表情を取り戻しつつあるように見えるのは、イエスとの真の交感があり得た証拠のように思えた。そして、レーヴェンイエルク軍、あのマルティネに恋をし叶わぬうちに別れた、若きレーヴェンイエルクが年を重ね、將軍となつてこの晩餐会に招待されていた。その將軍のスピーチがこの映画の本当の「メイン・デ

イッシュ」となるに相応しい内容のものであった。マルティネとの別れのあと、彼は軍の要職に就いて栄光の日々を重ねて来た訳だが、虚しさも同時に感ずるに至る。その虚しさの中にあつても彼はマルティネのことを思い続けて来た、と告白する。日々生活する時の流れは単調であるが、その中の一瞬の輝き、それがマルティネとの出会いと恋であった。その輝きを選ばなかった人生ではあるが、彼はその人生を甘受しそして肯定する。

時が我々の中で輝き続けている状態は短い。だが、時の一つ一つが恩寵のように思える瞬間がある。それが「バベットの晩餐会」で現わにされたものの一つではないか。最後から二番目のシーンであつたか（或いはその前のシーンか：：）、老人と老女のキス・シーンがあるのだが、柔らかな美しい笑顔の二人が幸福を慈しむように唇を重ねている。私は、声にならない叫びをそれを快哉と呼ぶのならそう呼ぶことにしよう。

発したのだった。そして、淨福な心持ちになつた。とてもとてもせつない気持ちでもあつた。ラスト・シーン。バベットの素性が明らかになる。彼女はパリでも一流のシェフであつた。しかし、十四年前（一八七一年のパリ・コミューン）の争乱に巻き込まれ、家族を失つたというのである。このシーンの彼女の言葉の一つ一つが珠玉であるが、中でも「貧しい藝術家はいません」の一言はこの映画の藝術家を導いているようでもあり、「謎の中の謎」のように響く詩句のようにも思える。私は少しの戸惑いと軽いめまいのような感覚に襲われた。「藝術家」として生きる時間は恩寵である。また、「人生の選択」を見誤つたと認識していた男の人生を、自身が全肯定する瞬間にも恩寵は訪れる。そして同時にその全てを目の当たりにした私たちにも：：。

時は人の中に生きていて、日々生まれ変わっている。カイロスとしての時間。それが恩寵をもたらし、恩寵は笑いをもたらす。「ハレルヤ！」

一人の老人が叫び続けたように、「主をほめ称えよ」と時が笑いながら呼びかける。ちなみに、原作者の名前イサクはヘブライ語起源で、その意味は「笑う者（人）」であるという。

「主をほめ称えよ」と時が笑いながら呼びかける。ちなみに、原作者の名前イサクはヘブライ語起源で、その意味は「笑う者（人）」であるという。



参考文献
『不思議の国のアリス』ルイス・キャロル著 矢川澄子訳 金子国義絵
新潮文庫 一九四九年
『聖書 旧約聖書続編つき』新共同訳
日本聖書協会 一九九五年
『動物シンボル事典』ジャン・ポール・クレベール著 竹内信夫他訳
大修館書房 一九八九年
『英文学のための動物植物事典』
ピーター・ミルワード著 中山理訳
大修館書房 一九九〇年



東京お台場へのお誘い



ワイルドフラワー咲く陽春のお台場、そこは海に面してレインボーブリッジを始め、いろいろな建物のある、おしゃれで風光明媚な街ですよ！

皆様のご参加をお待ちしています。

- ・月 日 平成 13年4月22日(日)
- ・集合場所 JR横浜駅7.8番線ホーム
(進行方向一番前東京寄り)
- ・時間 10時5分発に乗車します。
他方面からの方は、ゆりかもめ、台場駅下車にて直接フジテレビ、インフォメーション前で11時10分にお待ち下さい。
- ・コース 横浜～新橋～「ゆりかもめ」にて台場
- ・見学場所 フジテレビ～食事～船の科学館
(宗谷及び羊蹄丸見学)
- ・費用 入館料及び食事代約2,500円
- ・申込締切 平成13年4月10日
- ・申込み先 出口 Tel (FAX) 0467-24-0160
佐々木 Tel 045-472-6482

総会後の講演会のお知らせ

今回は神奈川学習センター助教授の隈部正博先生をお迎えしています。

数学をわかりやすく、楽しくお話いただきます。頭脳のリフレッシュを皆さんしてみませんか。どうぞ、お楽しみに！

- ・月 日 5月13日(日) 総会終了後
- ・時間 2時30分～4時(予定)
- ・講師 神奈川学習センター
隈部正博助教授
- ・演題(仮題)
「ゲーテルの業績について」



平成11年度に発足しました2つのサークル(グランドゴルフとダンス)ですが、大岡原っぱグランドゴルフサークルは、2年間の同窓会サークルを終え、4月から個人利用となります。そして、平成13年度からはスポーツセンターでの活動が主体となり、さわやかスポーツ普及活動の一環として引き続き行いますので、日時を確認してお出かけください。これからも、腕を大いに磨いて楽しみましょう。連絡先 金子 Tel 045-621-3387
又もう一つのサークル、ダンスは平成12年度をもちまして、終わりににさせていただきます。この2年間、パーティー等参加していただいた方々に心から御礼申し上げます。(西浦)

★卒業生の皆さんの、趣味、特技を生かしたサークルを新たに作りませんか。放送大学同窓会に相応しい内容の企画をお持ちの方ご連絡下さい。(連絡先は、出口又は佐々木まで)

新世紀を迎えて

神奈川学習センター
同窓会会長 伊東 廣明

放送大学同窓会も昨年創立十周年の記念行事を行い一つの区切りが出来ました。私たちを取り巻く環境は常に変化しています。

放送大学もいよいよ大学院の設置が決まり開校の細部スケジュールが組まれています。

在學生は勿論のこと同窓会の皆さんにも関心が高い事であると思えます。

最近、家庭・地域・学校教育において、青少年の非行や教育の崩壊、モラルの低下などが問題となっていて、その解決は短期間では難しいものばかりだと思えます。

時に子供達に対しても支援をしたいものです。

二十一世紀はIT時代等々言われていますが、日本人が本来もっている心を大事にする『心の時代』でもあると思えます。

フオスター・プラン活動報告

神奈川学習センター同窓会では「社会への貢献」の一環として、『フオスター・プラン』活動に一九九一年十二月より参加しています。

フオスター・プラン(国際名称:PIA=INTERNATIONAL)は、特定の宗教、政治に関係のない国際援助機関(NGO)で、子どもたちを取り巻く地域社会の生活環境を総合的に向上させることを目的とし、保健・衛生、居住環境、教育、人材・技術開発など多岐にわたるプロジェクトを実施しています。

レオニダス君(エクアドル 七歳) ラビ・ナリゲ君(インド 七歳)

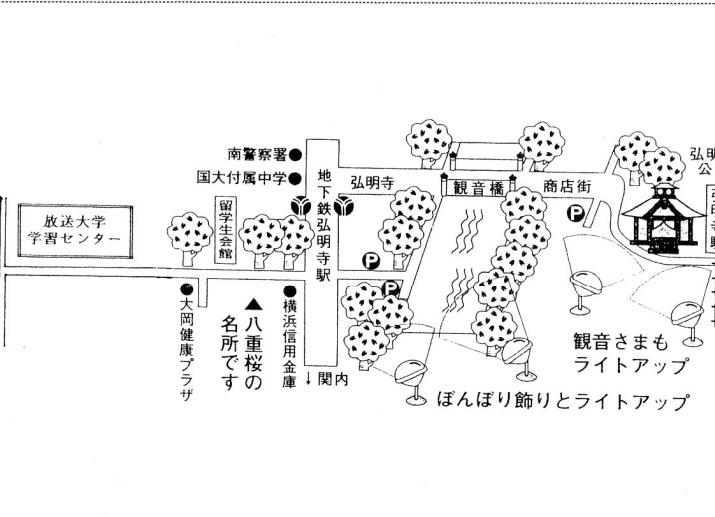
一年間の活動状況は、一月十四日から三週間学習センター談話室に掲示しました。

各同窓会の動き

- 【群馬同窓会】
《私の課題―発表と相互研鑽の集い》
一、日時 三月二十五日(日) 午後一時三〇分
二、場所 群馬学習センター講義室
- 【東京第二同窓会】
《第六回「私の主張」発表会》
一、日時 四月八日(日) 午後一時三〇分
二、場所 東京第二学習センター

- ☆新しい仲間
◎宮城野会(宮城学習センター) 会長 佐々木美枝子氏
◎広島同窓会(広島学習センター) 会長 中村靖雄氏
◎熊本同窓会(熊本学習センター) 会長 鈴木順子氏

学習センター―周辺情報
学習センターには足を運んでみませんか!新設の図書室、視聴覚室、談話室等々、四月になれば桜も見頃!



編集後記
世紀は変わろうとも二月の陽光は馨しい。柔らかく降り注ぐ陽だまりに佇むれば、全てがこの二月の光の中に溶け込んでしまうのでは、と錯覚してしまうくらいだ。僕たちは光の中を生き延びている。意識しようとしまいと、光のありふれた感触に浸っている。同時に陰や闇の存在を感じて、忍び寄る翳りに思いを馳せる。深呼吸一つ。一月の陽光に捧げるように。空の青がいつそう増したように思えた。『波濤』も新世紀を迎え、より充実した誌面作りに編集一同頑張ってきたと思っている。会員読者の協力を庶幾うところである。(片野)